

日野町社会教育計画《概要版》

～響き合う学び 輝く人が創る 日野の未来～



社会教育とは――

社会教育とは、地域ぐるみで行うすべての学びや活動です。公民館活動や読書活動、家庭教育支援、スポーツ、文化財保存活用など、誰もが主役となり、人生や町の未来を豊かにする身近な取り組みです。また、保育所や学校、家庭での教育を支える取り組みでもあります。

☆私たちが大切に「学びと活力のサイクル」

①大人の学びが、子どもの憧れに

大人が公民館や地域で生き生きと学び、課題解決に向けて汗を流す背中が、就学前や学校の子どもたちにとって「未来のカッコいい大人の姿」として憧れの対象になります。

②子どもの成長が、地域の活力に

子どもたちが地域のイベントや課題に参画し、感性を発揮して挑戦する姿は、地域全体に刺激と元気を与え、多世代共創の原動力になります。

「幼児教育×学校教育×社会教育」が響き合う「三位一体の学びの体系」を推進します

☆これから進める「3つの柱」と取り組み

人づくりと安全安心な地域づくり

学校・家庭・地域が一体となった次世代育成と、安全・安心な地域づくり

○地域と連携した防災教育

- ・防災ワークショップの開催
- ・全町一斉防災訓練を通じた多世代での学びと継承

○学校・家庭・地域の協働による「共育（ともいく）」

- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進
- ・家庭教育支援チームによる支援・啓発活動
- ・放課後の居場所づくり
- ・高校生への地域活動への伴走

○「共生・協働」による、地域で育む人と安心のネットワーク

- ・「家庭」を起点とした意識啓発から地域実践へ
- ・「見守り」と「多世代交流」
- ・人権意識を土台とした安心な地域コミュニティ

生きがいと学びの場づくり

豊かな感性を磨き、自分らしく学び続ける生涯学習

○世代を超えた地域住民相互のつながりと、主体的に行動できる人材の育成

- ・地域課題を解決する「探究型学習」と自主活動の支援

○地域住民への学習機会の確保と、学校等とも連携した拠点機能の強化

- ・「共生」の理念を育む人権教育
- ・図書館を核とした「知の循環と対話」他

○広域連携と持続可能な社会体制

- ・近隣自治体との広域連携による多様な学習機会

○地域に根差した自主活動と伴走支援

- ・住民の「やってみたい」を形にできる伴走支援他

○「開かれた拠点化」と、つながりを生み出す情報発信・使用促進

- ・公民館と図書館が手を取り合う「アウトリーチ型」読書・生涯学習
- ・誰もが参画しやすい「開かれた拠点づくり」と成果発信

スポーツ、文化、文化財を活かした町づくり

スポーツ、文化芸術の振興及び文化財の保存・活用

○ライフステージに応じた生涯スポーツ

- ・住民団体等と連携した生涯スポーツの振興と習慣化
- ・多様なニーズに応えるニュースポーツ等の普及と多世代交流
- ・日野川の恵みを活かしたリバースポーツの普及と拠点化

○文化芸術活動に親しみ、感性を磨く

- ・文化センターを核とした質の高い文化芸術活動
- ・学習講座等の充実による「表現の場」の創出

○文化財の保存・継承と未来への創造的活用

- ・「地域社会総がかり」による文化財の守り手の育成
- ・文化遺産を活かした「探究学習」と交流拠点の創出

○地域資源の魅力を活かした、新たな参画と次世代への継承

- ・日野川の自然を舞台にした「スポーツ」と「郷土学習」の融合
- ・歴史文化財を核とした「集い」と「体験」の拠点化

★本計画の詳細は、町ホームページでご覧いただけます。

【問合せ先】町教育委員会事務局（電話 72-2107）

熱中症対策グッズ

正しく選んで暑い夏を乗り切ろう

日野病院 病院長 孝田 雅彦

日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。



今年も厳しい暑さが続いています。日野町も全国と変わらず35度の猛暑です。今日（8月2日）は日差しも強く、裏庭のイチジクや栗の木に日光がまぶしいくらいに当たっているのを冷房の効いた部屋から見ると楽しいのですが、一歩外へ出ると熱風に驚かれます。

先日地震のあった熊本も猛暑、避難されている方は本当に大変な生活になっているかと思えます。2000年に地震に見舞われた日野郡も他人事ではありません。熱中症にならないように、体調を崩さないように住民自身も気をつ

け、行政も十分な支援をしてもらいたいと思います。

さて、この猛暑の中、ドラッグストアや量販店には、日傘や冷却タオル、携帯扇風機、ネッククーラーなど、様々な熱中症対策グッズが並んでいます。しかし実は、「涼しく感じるもの」と「体温の上昇を実際に抑えるもの」は、必ずしも同じではありません。せっかく買ったグッズを安心材料にしすぎて、無理を重ねてしまつては本末転倒です。今日は身近なグッズについて、医学的な観点から整理してみたいと思います。

まず、日傘とつばの広い帽子は、日差しを遮る効果が確実で、体感温度をしっかりと下げてくれます。買い物や通勤には、これが一番のおすすめです。私も通勤には日傘を差しています。濡れたタオルや霧吹きも、水分が蒸発するときに皮膚から熱を奪ってくれるため、効果的な冷却法です。農業など屋外での作業には、服の中にこもった汗を蒸発させて体温の上昇を抑えるファン付きジャケットが、

近年注目されています。首や脇の下、太ももの付け根を冷却剤で冷やすのも、応急処置として勧められている方法です。

一方で、使い方に注意したいグッズもあります。携帯扇風機は涼しく感じられますが、気温が体温に近づくとような猛暑日には、かえって熱風を浴びることになり、特に高齢の方では体温を十分に下げきれないことが分かっています。首を冷やすネックリングや冷却スプレー、額に貼る冷却ジェルシートも、涼しく「感じる」効果はあるものの、体温そのものを下げる力はいさというのが実際のところ。冷たいから大丈夫」と過信せず、休憩や水分補給を怠らないようにしましょう。

暑さの目安として、環境省が発表する暑さ指数も参考になります。数値が高い日は、無理に外出や作業をせず、活動を控える判断材料にしてください。実際に8月2日12時の暑さ指数は32・5で、31以上は外での運動は原則禁止、外出を避けるようになっていま

す。

熱中症予防でもっとも大切なのは、グッズに頼る前に、暑い時間帯の外出を控え、日陰やエアコンの効いた涼しい場所を過ごし、こまめに水分をとることで。グッズは、あくまでその基本を補う道具として、上手に活用してください。

もし、意識がぼんやりする、呼びかけへの反応が悪い、けいれんがあるなど、熱中症が疑われる症状が出た場合は、様子を見ずにすぐに119番へ連絡してください。日頃からの備えと、いざという時の早い対応で、今年の猛暑を安全に乗り切りましょう。

